

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H05676

研究課題名(和文)南米日系社会における複言語話者の日本語使用特性の研究

研究課題名(英文)A Study on Nikkei Plurilingual speakers in Latin America

研究代表者

松田 真希子(Matsuda, Makiko)

金沢大学・国際機構・教授

研究者番号：10361932

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトでは、長い歴史を持つ日本語複言語社会である南米日系移住地をフィールドに以下の4つの研究事業を行った。(1)南米日系人日本語複言語話者の複言語生活・複言語能力に関する実態調査と複言語データ収集(2)日本語複言語コーパス構築と公開(3)構築したコーパスを地域別、世代別、場面別等に比較分析し、複言語話者の日本語使用特性を解明(4)複言語社会に対応した日本語教育デザインならびに日本語言語政策に対する提言。(1)～(4)により南米複言語話者の育成には南米日系社会特有の地域連携・内容重視型の(継承)日本語教育が影響していることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1)日本語複言語話者研究の進展。特に南米日系社会で成長するCLD児童生徒の複言語能力の研究(2)南米日系人の言語研究に資する言語資源の構築。動画データおよび文字化データの量的な構築(3)南米日系人を巻き込んだ世界の日本語継承語教育研究ネットワークの形成(4)南米日系人複言語話者に対する日系社会の日本語教育のエンパワーメント

研究成果の概要(英文)：In this project, we conducted the following four research projects in the field of Nikkei settlements in South America, which is a plurilingual society with a long migration history. (1) Survey of the actual conditions of the plurilingual life and Japanese language proficiency of Nikkeis, and collection of speaking data; (2) Construction and publication of a Japanese plurilingual corpus; (3) Comparative analysis of the constructed corpus by region, generation, and situation, etc., to clarify the characteristics of Japanese language usage by plurilingual speakers; and (4) Educational Implications for the design of Japanese language education policy. The results of (1) to (4) revealed the influence of community-based and content-integrated (heritage) Japanese language education, which is unique to South American Nikkei society, on the development of Nikkei plurilingual people.

研究分野：複言語話者研究、日本語教育

キーワード：複言語・複文化 南米 日系人 日本語教育 Translanguaging

1. 研究開始当初の背景

21世紀は国家間移動の常態化が進み、個人における複言語・複文化が地球規模で進んでいる。日本国内はヨーロッパのような複言語社会ではないが、南米大陸には数百万人規模の日系人が南米大陸に移住しており、未だに多くの日系人集住地では日本語とホスト国の言語の複言語状態が維持されている。また20世紀末から日系デカセギ移民の受け入れにより、数年単位で日本-南米間の往還を繰り返す日系人も増加傾向にある。その一方で、南米は現在日系三世～四世が中心となり一世～二世人口が急速に減少しているため、日本語複言語話者は減少傾向にある。これまで、南米日系人の日本語使用状況については松原礼子モラレス氏[海外協力者]、工藤真由美氏、森幸一氏[海外協力者]、中東靖恵氏、李吉鎔氏、山東功氏、朴秀娟氏らが研究を行ってきた。これらは被験者に対する言語生活調査と小規模な談話データ分析に基づく質的研究が中心であった。そのため、日系コミュニティにおける多様な組み合わせに基づく大規模な日本語接触言語データやCEFR(Common European Framework of Reference for Languages)の枠組みで日本語言語能力を調査・分析した研究はまだ見られない。また、旧南洋庁管轄地域等における日本語使用者の接触言語研究はダニエル・ロング氏、中井精一氏[共に研究分担者]等が行っているが、南米日系移住地との地域比較は行われていない。更に近年複言語話者が複数言語をいかに戦略的に活用してコミュニケーションを行うか(Translanguaging)に関する研究が行われているが(Garcia2013)、海外の日本語複言語話者の戦略的な複言語使用の研究も管見の限りない。研究代表者は2005年から日本に定住する日系ブラジル人の日本語教育に従事し一方で日本語のコーパス言語学や音声の研究に従事してきた。その中で南米の日系複言語話者の言語使用実態に関する大規模データを収集し、分析を行うことが、今後の複言語時代の日本語教育研究に大きな貢献を果たすと考えるに至った。

2. 研究の目的

そこで本プロジェクトでは、100年以上の長い歴史を持つ日本語複言語社会である南米日系移住地をフィールドに以下の4つの研究事業を行った。

- (1) 南米日系人日本語複言語話者の複言語生活・複言語能力に関する実態調査と複言語データ収集
- (2) 日本語複言語コーパス構築とWeb公開
- (3) 構築したコーパスを地域別、世代別、場面別等に比較分析し、複言語話者の日本語使用特性を解明
- (4) 複言語社会に対応した日本語教育デザインならびに日本語言語政策に対する提言

3. 研究の方法

3-1 横断調査

日系CLD児童の複言語能力に関する調査研究をブラジル8地点、パラグアイ5地点、ボリビア2地点、アルゼンチン1地点で日本語教育環境調査を行い、そのうち約100名に対してDLA(文部科学省2014)による複言語(特に日本語)能力横断調査を行なった(担当:伊澤・松田/国際交流基金サンパウロ日本文化センターとの共同)。またそれらの子どもたちの言語使用環境調査も併せて行った。

日系移住地の調査としてブラジル・アマゾナス州マナウス、サンパウロ州アリアンサ移住地、ボリビア・Santa Cruz州オキナワ移住地、サンフアン移住地、パラグアイのブラジル国境であるエステ地区、ラ・コルメナ地区などで、1世から3世の約30名に対して複言語能力に関する調査(自由会話、設定課題発話、言語生活調査)を行なった。複言語話者同士、同世代同士の自由会話収集、フォーカスグループディスカッション、一人一人へのインタビューなどを行った。

3-2 縦断調査

CLD児童については、パラグアイ(ピラポ)、ブラジル(ピラールドスール)、ペルー(リマ)の3地点で日系子弟に対するDLA縦断調査を行った。ピラポの2回目の縦断調査は国際交流基金サンパウロ日本文化センターの協力を得て行われた。またブラジル、マナウス移住地で約3回にわたり岡田が参与観察を行った。

4 . 研究成果

4 - 1 南米日系 CLD 児童の複言語能力に関する調査研究

パラグアイのピラポ移住地、ポリビアのサンファン移住地、ブラジルのトメアスー移住地など、南米には日本語との接触場面が豊富に残る地域があり、学習時間が長い南米日系日本語学校で学ぶ児童生徒は、3 世以降で、かつ来日経験がなくとも日本語リテラシーが高い加算的バイリンガルが育っていることが確認された。一方、都市部、または過疎化が進む移住地では日本語リテラシーの高い複言語話者は育ちにくい傾向にあった。しかしブラジル・サンパウロ、パラグアイ・アスンシオン、アルゼンチン・ブエノスアイレスなどの都市部は日系の初等教育・中等教育機関で日本語・日本文化教育が盛んにおこなわれており、日本語力は高くないが多くの日本文化リテラシーの高い青少年が育成されている状況が明らかになった。

また、日本で育ち、南米に帰国した児童生徒の日本語力保持・伸長については、帰国先の学校の立地やカリキュラムに影響を受けることが明らかになった。例えばペルーの縦断調査では、日本で育ち 7 歳から 12 歳の間にペルーに帰国した子ども達が中学生になっても日本語を保持、伸長しているかを分析した結果、帰国年齢が 7 歳から 9 才の参加者は中学生になっても日本語の会話力を保持しており、2 年前と比べても大きな変化はないことがわかった。また、話す力だけでなく書く力も失ってはならず、むしろ年齢に近い認知レベルの内容を書くことができる可能性があることが明らかになった。

南米日系 CLD 児の複言語力を支えているのは、現地の日系団体経営の日本語学校や日系団体立の中等高等教育機関であった。特に日本語リテラシーの高い児童生徒を多く育てている日系団体経営の日本語学校では、人間教育としての日本語教育が重視され、日系移民子弟を主対象に文化芸術学習、移住地学習、世代間交流、地域コミュニティ活動が盛んに取り入れられていた。具体的には以下のような傾向が見られた。

- [1] 人間教育を最重要視しその結果として日本語習得もおこりうると考えていること
- [2] 語学学習塾ではなく「学校」であろうとしていること
- [3] アーティキュレーションを重視し幼稚園から上級まで一貫したコース設計をしていること
- [4] 日本語だけでなく文化、体育、コンピュータ、音楽などの学習を重要視していること
- [5] 部活動があり、リーダーとメンバーが自主的に運営を担う機会を提供していること
- [6] 学校内で日本語と現地語の複言語環境を容認していること
- [7] 学習者に対し光村図書の国語教科書で「読み物」教育を行っていること
- [8] 協働、自律、自己省察、産出強化のためのグループ交換日記を実施していること
- [9] 社会学習、行事参加、コミュニティ運営などコミュニティメンバーという当事者性を持たせる学習環境づくりをしていること
- [10] 複式クラスを柔軟に取り入れ、インクルーシブで自発的な学びの機会を提供していること
- [11] 生徒、教師共に自己省察を重視し、教師が答えを言わないようにしていること
- [12] 学習活動の多くに内容統合型言語学習 (CLIL) と親和性があること

こうした学校形態が南米日系社会の年少者の複言語教育の成功の一因となっていると思われる。日本在住の日本生まれの日系 CLD 児童に対しても、南米で複言語話者として育つ

た日系 CLD 児童生徒に対する言語教育実践から内容重視型教育、コミュニティスクール形式、インクルーシブ教育、学校半日制など、いくつかの検討に値する示唆が得られたと思われる。

4 - 2 南米日系成人の複言語能力に関する調査研究

調査の結果、南米の各地で、海外日系人の移住地の中でも高い日本語力を保持した複言語使用者が多く存在していることが確認された。特に日系 3 世以降でも優れた日本語複言語話者が多く存在していたこと、パラグアイ国境付近の日系人は 4 言語使用者も見られたこと、ボリビアの日系 2 世同士の自由会話では日本語とスペイン語、九州の方言の言語混交が起こっていたことなど、日系人の生活する社会や場面に応じた言語使用の多様性が確認された。今後、南米日系人の言語使用状況を使用者とその社会の中に関連付け、ことばの動態性、連続性、普遍性について分析する予定である。それにより、所与のものとして区切られた日本語や外国語の研究に新たな示唆を提供できると予想される。

4 - 3 コーパス化事業

動画データベース構築とテキストコーパス構築からなる。本科研で収集した成人の複言語での会話動画は約 20 本 youtube で公開した。テキストコーパスは CLD 児童の DLA の動画データをアノテーションしたファイルを現在後継科研（海外日本語承語(JHL)コーパスの開発と日本語・日本語教育研究への応用：最終年度前年度申請にて接続）に接続し、構築作業中である。

アノテーション作業は国際交流基金サンパウロ日本文化センターとの共同プロジェクトとして実施している。現在南米スペイン語圏約 100 名、ポルトガル語圏ブラジル約 100 名の DLA データを動画アノテーションツール ELAN を用いて文字起こしを行い、非言語行動のタグが付与したコーパスを構築した。現在は公開に向けて作業を進めている。また、日系人の会話データについては、後継の JHL 科研で大規模なライフストーリーのナラティブ動画約 200 名分を収集・作業中である。

4 - 4 海外研究ネットワークの構築

2019 年に EJHIB2019 をサンパウロの JAPAN HOUSE で開催した。Zoom によるハイブリッド開催でヨーロッパや日本、北米などからも参加者を得ることができた。現地会場への参加者は約 300 名であった。予稿論文などは大会ホームページからアクセスすることができるようになっている。

<https://ejhib.com/program/>

また基調講演にニューサウスウェールズ大学のトムソン教授を招聘したことで、オーストラリアの継承語教育研究ネットワークとの連携を進めることができた。EJHIB は 2015 年 2019 年と 4 年に一度開催しており、2023 年はシドニーで実施することとなった。今後も世界の日本語ディアスポラの国際研究ネットワークを発展させる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 伊澤 明香	4. 巻 26
2. 論文標題 日系コロナ地域における日系ブラジル人の子どもたちの日本語会話力	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田日本語教育学	6. 最初と最後の頁 53 - 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 久洋・松田 真希子	4. 巻 26
2. 論文標題 人間教育としての日本語教育 -ピラール・ド・スール日本語学校の実践-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田日本語教育学	6. 最初と最後の頁 27 - 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福島 青史	4. 巻 26
2. 論文標題 【特集】移民とことば-ブラジル日系人と日本語教育を例に- 緒言 日本の未来を映すブラジルの日本語教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田日本語教育学	6. 最初と最後の頁 i - v
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 向井裕樹, 松田真希子	4. 巻 2
2. 論文標題 複言語・複文化社会における日本語使用者のライティング - サンパウロとブラジリア在住の日系人を例にして -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 金沢大学国際機構紀要	6. 最初と最後の頁 29 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 MATSUDA, Makiko Ishikawa, Yuka	4. 巻 1
2. 論文標題 Development of a L2 Japanese lexical syllabus for students majoring in science and engineering.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Digital Resources for Learning Japanese	6. 最初と最後の頁 71-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hatano, H , Ishi, C. T , Song, C. C , Matsuda, M	4. 巻 1
2. 論文標題 Automatic evaluation of accentuation of Japanese read speech	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Digital Resources for Learning Japanese	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊澤明香・宮崎幸江・松田真希子	4. 巻 1
2. 論文標題 複言語・複文化社会ブラジルにおける日系の子どもの日本語能力の多様性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 論集：「南米日本語教育シンポジウム2017：南米における日本語教育の現在と未来 - 日系社会のポテンシャル」	6. 最初と最後の頁 133-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田真希子・中川郷子	4. 巻 21
2. 論文標題 外国にルーツをもつ児童の発達アセスメントと言語の問題について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 金沢大学留学生センター紀要	6. 最初と最後の頁 19-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 細川英雄	4. 巻 1
2. 論文標題 日本語人という生き方—ことばによって人は何をめざすのか—	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 論集：「南米日本語教育シンポジウム2017：南米における日本語教育の現在と未来 - 日系社会のポテンシャル」	6. 最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊澤明香	4. 巻 27
2. 論文標題 ブラジルの日系人の子どもたちの日本語の読解力に関する一考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本語・日本文化研究	6. 最初と最後の頁 98-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田真希子, 嶋崎明美	4. 巻 1
2. 論文標題 日本の「見えない」文化の継承教育を考える メキシコ日系人・日本人アンケート調査に基づく分析	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 本田弘之・松田真希子編『複言語・複文化時代の日本語教育』（付属CD-ROM論文集）	6. 最初と最後の頁 271-278
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 佐野香織	4. 巻 12
2. 論文標題 「ことばの活動と学び再考：「越境」の概念から考える」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター研究年報	6. 最初と最後の頁 148-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野香織	4. 巻 122
2. 論文標題 越境の学びの展開 - 関心・専門分野を異なる領域の人々と学び合う-	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 比較文化研究	6. 最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件 (うち招待講演 18件 / うち国際学会 18件)

1. 発表者名 松田真希子・中川郷子
2. 発表標題 複数の言語社会を移動するこどもの発達と支援について：ブラジル帰国生を例に
3. 学会等名 International Conference on Social, Linguistic and Human Mobility and Integration (EJHIB2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 向井裕樹・名嘉真 エドアルド
2. 発表標題 ブラジルのサンパウロ市に移住した沖縄移民一世の言語使用状況とそれに纏わる問題
3. 学会等名 International Conference on Social, Linguistic and Human Mobility and Integration (EJHIB2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部 新
2. 発表標題 ブラジルの高等教育機関における日本語学習者の言語学習ピリーフの多様性
3. 学会等名 International Conference on Social, Linguistic and Human Mobility and Integration (EJHIB2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mitsuyo SAKAMOTO
2. 発表標題 Monolingualism to translanguaging and beyond: Exploring perspectival evolution of what it means to know languages
3. 学会等名 International Conference on Social, Linguistic and Human Mobility and Integration (EJHIB2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mitsuyo Sakamoto & Junko Saruhashi
2. 発表標題 Applying translanguaging concepts in language education in Japan: A critical perspective on a recent trend
3. 学会等名 International Conference on Social, Linguistic and Human Mobility and Integration (EJHIB2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻井千穂・宮崎幸江・伊澤明香・松田真希子
2. 発表標題 往還するこどものことばと教育 - すべてがつながり、すべてが「+」になる教育をめざして-
3. 学会等名 International Conference on Social, Linguistic and Human Mobility and Integration (EJHIB2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野香織
2. 発表標題 ブラジルの「日本語教師」が学びを創りつなげる継承者(ジェネレーター)になる学び - 月イチとラウンドテーブルを通して-
3. 学会等名 International Conference on Social, Linguistic and Human Mobility and Integration (EJHIB2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ダニエル・ロング・中井精一・尾辻恵美・岡田浩樹・松田真希子
2. 発表標題 社会・人・ことばの動態性と統合ー「日本」とのかかわりを中心にー
3. 学会等名 International Conference on Social, Linguistic and Human Mobility and Integration (EJHIB2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田 真希子
2. 発表標題 南米日系人のコンパラブルな語りにおける言語・非言語使用特性
3. 学会等名 第44回社会言語科学会研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Makiko MATSUDA
2. 発表標題 What makes them "disable" children? -A case study of Nikkey-Brasilian children diagnosed as "developmentally disabled" in Japan-
3. 学会等名 JSPS Core-to-Core Program KOBE SEMINAR 2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田真希子
2. 発表標題 「生きたことば」の主体的使い手としてのプロフィシエンシー パネル「多様化する個とプロフィシエンシー研究」
3. 学会等名 第一回日本語プロフィシエンシー研究学会国際大会 第12回OPI国際シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅長理恵, 松田真希子
2. 発表標題 課題作文「学校紹介」の学年別使用語彙の分析 DLA 「書く」評価参照枠精緻化のために
3. 学会等名 2019年度日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田 真希子
2. 発表標題 日本で発達障害を疑われた ブラジル系児童の複言語での能力評価
3. 学会等名 バイリンガル・マルチリンガル (BM) 子どもネット研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田真希子
2. 発表標題 ふさわしさの文法 日本語複言語話者の日本語使用から見えること
3. 学会等名 日本語文法学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田真希子
2. 発表標題 南米日系人子弟の日本語教育実践「ピラール方式」の有効性と課題 -CLILの枠組みからの分析-
3. 学会等名 第12回ブラジル日本研究1 国際学会 (CIEJB) ・ 第25回全伯日本語日本文学日本文化大学教員学会 (ENPULLCJ) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田真希子
2. 発表標題 南米日系社会の省察的实践家
3. 学会等名 言語文化教育研究学会 第 5 回研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makiko Matsuda
2. 発表標題 Migration and Identity among Japanese-Brazilian Return Migrants.
3. 学会等名 Seminar for JSPS Core-to-Core Program (A: Advanced Research Networks) Japan-Asia-Europe Comparative Symposium on Migration, Multiculturalization and Welfare in Naples 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ダニエル・ロング
2. 発表標題 南米ボリビアとパラグアイにおける日本系・沖縄系移住者の日本語使用および言語混交状況について
3. 学会等名 韓国日本語学会 第 3 7 回国際学術発表大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 細川英雄
2. 発表標題 「日本語人」という生き方 - ことばによって人は何をめざすのか」
3. 学会等名 南米日本語教育シンポジウム2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡田浩樹
2. 発表標題 文化・社会が生み出すことば、ことばが織りなす文化・社会 日系文化研究における人類学的研究と言語研究の共同作業に関する予備的考察
3. 学会等名 南米日本語教育シンポジウム2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 尾辻恵美
2. 発表標題 「ことばの共生とメトロリンガリズム：社会観、言語観、言語教育観の転換に向けて」
3. 学会等名 シンポジウム 「言語研究・言語教育研究は、どのように社会に貢献できるのか」 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤慎司
2. 発表標題 「断絶の時代とことばの教育： ウェルフェアリングイステックスの視点から」
3. 学会等名 シンポジウム 「言語研究・言語教育研究は、どのように社会に貢献できるのか」 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ダニエル・ロング
2. 発表標題 「絡み合わない言論 現代アメリカ社会におけるメディアと政治家」
3. 学会等名 シンポジウム 「言語研究・言語教育研究は、どのように社会に貢献できるのか」 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中井精一
2. 発表標題 「戦後日本社会の政策と敬語 民主化・教育・格差社会 」
3. 学会等名 シンポジウム 「言語研究・言語教育研究は、どのように社会に貢献できるのか」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊澤明香
2. 発表標題 ブラジルの日系人の子どもたちの日本語保持の実態 ブラジルの日本語学校での横断調査から
3. 学会等名 母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田真希子・木村多恵子
2. 発表標題 ウェルフェアリングイステイクスの枠組みから留学生の地域奉仕活動を考える」パネル『ウェルフェア・リングイステイクス』と日本語・日本文化教育：参加者の多様な資源を生かした言語文化教育
3. 学会等名 AATJ2017 ANNUAL SPRING CONFERENCE (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Makiko MATSUDA
2. 発表標題 Japanese Language Education in the Age of Pluringualism/Pluriculturalism
3. 学会等名 Kick-Off Symposium for JSPS Core-to-Core Program (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐野香織
2. 発表標題 「私は 語学習者？」 「 語の学習者」ではない人の学びの方向性を考える：「インターローカルポスター発表」の試み
3. 学会等名 言語文化教育研究学会・香港大学・つながろうねっと共催 国際研究集会 「言語教育の「商品化」と「消費」を考える」(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐野香織
2. 発表標題 「異分野・異業種間「読書会」の「わざ」を言語化する意味」
3. 学会等名 日本教育工学会第32回全国大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上甲アリセ
2. 発表標題 ポルトガル語話者の日本語の発音習得過程における中間言語の特徴
3. 学会等名 外国語発音習得研究会 第六回研究集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 本田弘之, 松田真希子編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 凡人社	5. 総ページ数 272
3. 書名 複言語・複文化時代の日本語教育	

〔産業財産権〕

[その他]

<p>JHLコーパス https://www.matsudamakiko.com/jhl-corpus EJHIB2019 https://ejhib.com/ http://fjsp.org.br/simposio_2017/ EJHIB2015 https://ejhib2015.com/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	Daniel Long (Long Daniel) (00247884)	首都大学東京・人文科学研究科・教授 (22604)	
研究分担者	渡部 倫子 (Watanabe Tomoko) (30379870)	広島大学・教育学研究科・准教授 (15401)	
研究分担者	森 篤嗣 (Mori Atsushi) (30407209)	京都外国語大学・外国語学部・教授 (34302)	
研究分担者	宮崎 幸江 (Miyazaki Sachie) (60442125)	上智大学短期大学部・英語科・教授 (42717)	
研究分担者	小林 ミナ (Kobayashi Mina) (70252286)	早稲田大学・国際学術院(日本語教育研究科)・教授 (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	細川 英雄 (Hosokawa Hideo) (80103604)	早稲田大学・国際学術院（日本語教育研究科）・名誉教授 (32689)	
研究分担者	佐野 香織 (Sano Kaori) (80774398)	早稲田大学・日本語教育研究センター・講師（任期付） (32689)	
研究分担者	久野 マリ子 (Kuno Mariko) (90170018)	國學院大学・文学部・名誉教授 (32614)	
研究分担者	中井 精一 (Nakai Seiichi) (90303198)	富山大学・人文学部・教授 (13201)	
研究分担者	福島 青史 (Fukushima Seiji) (90823724)	早稲田大学・国際学術院（日本語教育研究科）・教授 (32689)	
研究分担者	伊澤 明香 (Izawa Sayama) (70846899)	大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・助教 (34427)	
研究分担者	山本 和英 (Yamamoto Kazuhide) (40359708)	長岡技術科学大学・工学研究科・准教授 (13102)	
研究分担者	林 良子 (Hayashi Ryoko) (20347785)	神戸大学・国際文化学研究科・教授 (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 International Conference on Social, Linguistic and Human Mobility and Integration (EJHIB2019)	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 EJHB2019	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 南米日本語教育シンポジウム2017	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ブラジル	サンパウロ大学	ブラジリア大学	国際交流基金サンパウロ日本文化センター	他3機関
オーストラリア	シドニー工科大学	ニューサウスウェールズ大学		
パラグアイ	日バ学院			
ボリビア	ボリビア日本人会連合会			
ペルー	ラウニオン学校			
ブラジル	国際交流基金サンパウロ日本文化センター	サンパウロ大学	ブラジリア大学	
パラグアイ	日本パラグアイ学院			
ボリビア	ボリビア日系協会連合会			